



次所 赤張 田出 平 成 23 年 11 月 20 日  
用 質 出 張 平 飯 成  
号 者 局 任 行 務 務 事 第 第 第

### 桜町小の 集団避難所訓練

委員 小倉紀太郎

アザレアの花が咲く頃、今年、9月17日(土)午後3時から翌朝6時30分頃にかけて、桜町小学校体育館において「防災訓練避難所体験」の催しが、学校協議会、地域住民等により行われました。

- 1 入口の解錠、避難所設置
- 2 防災倉庫の内部物確認
- 3 炊き出し訓練(レトルトカレーの温かい食事)。
- 4 児童参加者集合(保護者同伴、寝具持参)。
- 5 消防署員によるレクチャー
- 6 災害(地震)発生時の救助態勢について。
- 7 慌てない。玄関ドアを開けておく。余震に備える。ケガの6割を占めるガラス対策(運動靴、ヘルメット等)。
- 8 児童に「災の用心の心」を

8 体育館での体験就寝訓練等々を行い、有意義な時を過ごすことが出来ました。

(周南学区防務部長)

### 歳末防犯活動

委員 横須賀義正

私達瀬田町会防犯部は、昨年、十二月二十八日に街の防犯と火災予防の為に、瀬田、玉川台、上野毛地区の夜間パトロールを行いました。さいわい外灯の切れたところも見あたらず、街中は比較的明るく感じられました。又、不審者らしき人物も見受けられませんでした。

今冬も犯罪のない明るい町づくりをめざし、活動を続けてまいります。末筆になりましたが、この活動にご協力ご指導いただいた玉川警察署、玉川消防署、瀬田小学校おやじの会の皆さまには、深く御礼を申し上げます。

(瀬田町会副会長)

## 秋から冬へ

### 私の散歩道

委員 和田峰一

足の衰えを感じる最近、かねて妻と話し合っていた健康の為にもと、目標一日一万歩をめざして散歩を始めた。一人では急げ心がでるので、互いに励まし合い継続している。

上用質は自然環境に恵まれていて、冬には馬事公園の外周を回り、世田谷通りを抜け、人、車の多さを感じ、春からは砦公園内を回って都会の静けさを感じ、今迄あまり気にしなかった季節の移り香に、心を癒されていく。

今は、彼岸花が真・盛りである。少し前までの猛暑が懐かしく、初秋の日々を全身に受けている。

### この町に住んで

委員 藤崎健一

過日、帰宅すると、珍しく6年生の息子が泣いていました。3年前に「納涼の夕べ」で捕まえ、家族に変わったとじょうが死んだからです。

この「納涼の夕べ」、都会の子供達へどうしようを捕まえる体験を」という想いで、用賀町会が主催し、続けています。

また、「このゆびとまれ」では、京西小の子供達に作る体験を」と、うどん作りなどを高橋恵子さん、高橋佳一さんのご指導で、19年目を迎えます。この様な活動が盛んな用賀を誇りに感じます。

(京西小PTA会長)

### 「子玉川の安全対策

委員 星俊一

私どもは、子玉川公園の平成27年春の全園オープンに向け、準備を進めています。公園は、安全・安心の公園づくりという視点から、マンホールトイレや、かまどベンチを設置するなど、万一の震災にも備えた設計をしています。

また、公園の一部は、多摩川の水害を防ぐ堤防機能を兼ねていますし、四千四百㎡の雨水貯留槽を設置するなど、豪雨による浸水対策も充実させます。

もちろん、だれもが楽しめる憩いの空間としての公園づくりもめざしていますので、開園をお楽しみに！

(世田谷区子玉川施設整備課)

### 木洩れ日

委員 飯田恭次

今年も残すところ一ヶ月余り、日本列島は三月の東日本大震災の傷跡を残したまま、新年を迎える事になります。

私たちは「平成二十三年三月十一日午後二時四十六分」という時をいつまでも忘れる事はないでしょう。

振り返ると、今年は災害の多い年でした。二月、霧島の新燃岳噴火、海外ではニュージーランドのクライストチャーチで大地震、三月の東日本大震災は津波、夜状化の被害に加え福島原発の事故と広がり、九月の台風は四国、中国地方を直撃、記録的な大雨となりました。

そして、同月下旬、東京を通過した台風十五号は、首都圏の交通網を寸断、十月に入って海外タイ国での大雨洪水被害等々……。

一方、高さ六三四米の東京スカイツリーは全容を見せ、来年の完成を待つばかり。

私たちの町では、子玉川の再開発が進み、駅周辺の街並みが大きく変わってきました。

迎える新年は平成二十四年、平成時代に入り、日本の総理大臣は十七人が次々と交替、変動する国際社会の中で、日本の国は稍、ゆきかげんの様に見えます。明日への希望に向けて、コガンバレ日本と云うところでしょうか。

# 郷土紹介

## 大山道場にかかわる

平井夏子

地元用賀の郷土史が好きという方が月に一度集まって活動をする大山道場も、今年で四年目となりました。大山道場では、用賀を通る大山道をテーマに、勉強会やまち歩きをしたり、昔から用賀に住んでいる方に昔の用賀の風景を教えてくださいました。

大山道場については既に何度も紹介されていますが、江戸時代中期頃から盛んになった大山詣の際に通った道です。大山道はいわゆる鎌倉道と同じで、大山に通じる道は全部大山道と呼ばれます。なので、大山道は各地にいくつもあ

## 謡曲のすずめ

飯田恭次

謡曲は『能』の台本とも云えますが、かつて、結婚式祝宴で、小謡『高砂や、この浦舟に帆を上げて……』が、よく謡われました。

又、金沢や佐渡では、謡が空から降って来る……と庭木に昇って手入水をしていた植木屋さんが、謡曲の一節を詠いながら仕事を続けたと云う話しも残っています。

## 和の文化

そして、戦国時代の武将細川幽斎は、謡曲十五徳と謡曲を身に付けると、十五の徳があると伝えています。その、いくつか……

行かずして名所を知る  
習わずして歌道を知る  
恋せずして美人を想う  
老いずして古事を知る



すが、用賀を通る大山道は主に江戸方面から大山に行く人が通った道となります。また、用賀は大山方面に行く人が、多摩川を渡る際増水で川止めとなった時に川の状態が良くなるのを待たたりする場所でもありました。

現在の大山通り沿いの、メガ木屋さんがある場所には、かつて飯田楼（のちに飯島旅館）という旅館もありました。

このあたりの詳しいことは『歴史を彩る用賀の道いまむかし』という大山道場の参加者で作成した、お散歩マップに載っていますので是非お手にとって見て下さい。

用賀商店街のハロー\*ようがという場所で配布しています。（用賀まちなみ活動券）

## 葉なくして鬱気を散す

葉なくして鬱気を散す

現代社会は時間に追われ情報過多の渦の中、ストレスが溜りがちです。

一方、戦後、私たちの生活環境は和から洋へと大きく流れが変わりました。

家の中から和室が消え、和服を着る機会が減り、正座をする習慣も薄れています。

今、私たちは日本の伝統芸能を通じて、日本人の心のふるさと、和の文化を見直す時が来ている様に思います。

臈下丹田に息を溜めて謡曲を謡う。

言葉通り、葉なくしてストレス解消です。

## ふるさと用賀

翼子自 高橋登子

長い間、用賀で暮らしてきますと、過ぎ去った昔の様子が、今でも懐かしく思い出されます。

子供の頃の、まちの姿は長閑な田園風景が広がり、畑、田圃、雑木林、原っぱ、秋から冬にかけての、木枯らしの吹く時でも、子供達の楽しい遊び場でした。

いつしかそこも、商店や住宅に変わり、昔の面影はなくなり、まちの中心は、用賀駅で商店街が広がり、まちは賑やかになり、必要なものはほとんどそろい、便利になりました。

木枯らしの吹く原っぱは、少なくなり、そして今は、

## スポーツ

古着・古物の回収

12月10日(土) 9時〜12時  
京セラミタ(株)駐車場  
(玉川台2-14)

歳末助け合い 募金運動  
11月17日〜12月16日

京西小学校落成式  
12月10日(土)

さぎ草講習会  
24年2月上旬



振り込め詐欺にご注意を！

自転車はルールを守って安全に乗りましょう

戸締まり用心・火の用心

## わが故郷



ビル風が吹いています。それでも私はふるさと用賀が好きです。用賀には友人が多く、まちで出あって日頃のなげない世間話が出来ることを、今、とても幸に感じます。

また昔を思い起こすと、私のかつての住まいには上原（うねっぱら）という字名がありました。今の上用賀一丁目高台あたりの場所です。

用賀にはその他にも、新堀端、本村（ほんむら）、中丸、向原（むかいはら）、上人塚など、様々な字名がありました。今は、ほとんど使われることは無くなりました。



三月十一日東日本大震災が発生しました。これに伴い大津波も押し寄せ、また原発事故も起きました。福島という地名は世界中に知れ渡ってしまいました。

東京大学の御厨先生は、これからは戦後何年から震災後何年という表現にと、て代るだろう、と書いておられます。

阪神大震災以降地震が多発していますが、それぞれ異なる顔を見せています。近い将来、首都直下型地震も発生するといわれています。それに地域社会はどのように向き合っていけばよいのか、明確な解答がないまま季節は早、秋から冬に移ろうとしています。（高橋登）